

## 晃永Cが和歌山市に災害備蓄用お粥を寄贈（写真付）

2020年08月31日 18時50分 ニュース, 政治, 社会, 経済, 防災

和歌山市朝日(あさひ)に本社のある健康食品メーカー・株式会社晃永(こうえい)コーポレーションは、きょう（31日）和歌山市に、災害備蓄用の保存食として、玄米や大豆、はと麦などが入った缶入りのお粥(かゆ)1000缶を寄贈しました。



尾花市長（左）に缶入りお粥を贈呈した丸山社長（右）（8月31日・和歌山市役所市長室）

寄贈された缶入りのお粥は、日本歯科大学・新潟生命歯学部（新潟県新潟市）の食育・健康科学講座が監修し、玄米や大豆、小豆(あずき)、はと麦が入ったバランスよく栄養が採れるお粥で、お年寄りや小さな子どもにも食べやすく、長期保存も可能です。



寄贈された缶入りお粥

きょう午前、晃永コーポレーションの丸山弘晃(まるやま・ひろあき)社長と、監修した日本歯科大学・新潟生命歯学部の中野智子(なかの・ともこ)客員教授らが和歌山市役所を訪れ、尾花正啓(おばな・まさひろ)市長に目録を贈呈し、尾花市長からは感謝状が贈られました。



日本歯科大学新潟生命歯学部の中野客員教授

中野客員教授は「災害で断水が起これば、飲み込むのに水が必要な備蓄食では不都合なことも想定されま  
す。その点、お粥は水分が多く摂取しやすいので有効だと思う」と話しています。

尾花市長は「普段から食べやすく栄養バランスも考えられた缶入りお粥の寄贈は大変有難い」とお礼を述  
べました。